

さざなみ

# 国語教室

さざなみ国語教室  
 第470号 2021年5月25日  
 発行者代表 吉永幸司  
 連絡先 大津市柳川2-11-5  
 TEL 077-522-1008  
 発行所 滋賀児童文化協会  
 NPO 現代の教育問題研究所

## さざなみ

### 曾我正雄

ふじの山 巖谷小波  
 あたまをくもの うえにだし  
 しほうのやまを みおろして  
 かみなりさまを したにきく  
 ふじはにつぼん いちのやま

幼少年の頃、誰もが口ずさみ、心豊かに成長する糧となってくれた「ふるさと」は滋賀県を、琵琶湖を、さざなみをこよなく愛した童話作家・小説家・俳人の巖谷小波先生の作詞である。

「桃太郎」「舌切り雀」「花坂爺」「浦島太郎」「カチカチ山」等々、説話や昔話が読めるのも巖谷先生のお陰である。  
 巖谷先生は（明治二十四年）「こがね丸」を発表し、近代児童文学

の創始者として、「少年世界」「少女世界」「幼年画報」「幼年世界」で健筆を振り、「日本昔噺」「日本お伽噺」「世界お伽噺」「世界お伽文庫」など説話や創作童話の整理・移植につとめた。  
 また、作家・学者としてだけでなく日本のアンデルセンと言われる久留島武彦氏と、口演童話家として日本・朝鮮・台湾・ドイツ等各地を回り、活躍された。私の所属している全国童話人協会物故者法要の巻紙の最初にある方の名前が巖谷小波である。  
 私は青年教師であった頃から、国語研究会「さざなみ」から大きな影響を受けて教育実践に励んできた。「さざなみ」という語感の中に優しさが好きである。小

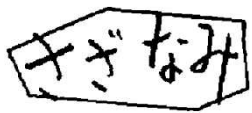
学校を退職して二十年になるが、今も、「さざなみ」の精神を受け継ぎ松原市公民館が開催している「松原民話語り部講座」を担当している。巖谷小波・久留島武彦から受けた影響も大きい。水口歴史民族資料館にある巖谷一六・小波記念館に足を運んでいただきたい。

今、大へんな時代を迎えている。しかし、アメリカの大統領選で、バイデン氏が勝利したことで、世界に、人類に希望が生まれた。中央教育審議会では、「育成すべき資質・能力」として三つの柱を挙げている。①どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、②主体的・対話的で深い学び、③何を理解しているか、④理解していること・できることをどう使うか。

このことを実践するヒントを巖谷先生が持つておられる。小波先生の俳句を紹介してまとめたい。

- ・ 枯木にも復興の花さかせたり
- ・ 訪ねあてし雀の宿や竹の春
- ・ 青東風や松に天女の忘れも乃
- ・ 春の水前途豊かに海に入る
- ・ 猿知恵の鼻面もとや蜂の槍

教育界では、AIやIT機器が導入され、電子黒板やパソコン・タブレットの操作が必須となっています。しかし、教育は、人育てです。ゆつたりとが大切です。  
 （元大阪市小学校教育研究会国語部部长・元平安女学院大学教授）



▼所属する俳句結社に俳誌の企画に「誌上句会」があります。毎月、課題して漢字一文字が提示され、それ、投句します。課題の漢字は「花・右・上・西」などです。それほど難しい

漢字ではありません。会員は、課題の漢字を入れ俳句を作ります。投句作品の一覧から、好きな句を選ぶというものである。手元の俳誌で「上」では、「日向ほこうなずくだけの聞き上手」「笑」では、「微笑も言葉のひとつ水温む」が高点句▼今月は、課題の漢字が「男」です。ふと、ジェンダーのことを思い浮かべました。「鶯や男生るゝ午の刻」（正岡子規）「屋顔の蔓を跨いで晴れ男」（桑原三郎）の俳句を思い浮かべ、教科書の俳句を調べてみました。光村図書では4年生で「名月や池をめぐりて夜もすがら」（松尾芭蕉）「夏草を越すうれしさよ手に草履」（与謝蕪村）「雀の子そのけそのけ御馬が通る（小林一茶）が教材になっていきます▼飯田蛇笏・高野素十・水原秋櫻子・高浜虚子・中村汀女の作品を採用している。日野草城・鈴木真砂女・星野立子・西山泊雲という俳人の名が並びます。男女の偏りなく中村汀女・加賀千代・橋本多佳子・黒田杏子・黛まどかなど女性の俳人の作品を示すことも大事だろうという感想を持ちました▼誌上句会の課題「男」を織り込んだ作品一覧が楽しみです。  
 （吉永幸司）

「帰り道」に何が起るか

想像しよう

北川 雅士

新年度が始まり「帰り道」(光村図書6年創造)の学習に取り組んだ。昨年度は4月から5月までが休校であったため、この教材も自宅学習と学校での指導が半々であった。今年度は新教科書になり初めて4月から計画的に指導ができる。

「帰り道」は、1と2で同じ出来事の見方が変わる物語である。導入前にまずは、最初の一文を提示してみた。

T:「じゃあ初めの一文を読みます」「放課後の騒がしい玄関口で、いきなり、周也から『よっ。』と声をかけられて、どきっとした。」「さわがしい?」「みんな帰る時間かなあ」「周也やっつて」「いきなりってことは突然やんな」「口々に話が盛り上がり始めたので、いくつかの項目を提示して話し合ってみた。

T:「この物語はどのような状況から始まっていますか?」

C:「題名が「帰り道」なので帰り道かなあ。

C:「でも、玄関口ってことは、帰り道じゃない気がする。

C:「これから帰る準備中。」

T:「登場人物でわかることはありますか?」

C:「周也くん。いきなり「よっ。」って言うてる。

C:「なんか軽いよな。自分なら名前呼ぶ。」

C:「もう一人話しかけられてるのは誰かな。」

C:「この人が律じゃない。書いてあるし(扉のページに律と周也の名前は紹介されている)」

T:「じゃあなぜどきっとしたのでしょうか。」

C:「突然で驚いたから。いきなり「よっ。」は驚くと思う。」

C:「なんか隠し事があるんじゃない。話したくないような。」

C:「周也君のものを壊したとか。悪口を言ったとか。」

「2」の最初の一文も読んで話し合ったが、抽象的な表現に子供たちは盛り上がらなかったため、本文を読んだ。物語の感想を読んでいると「想像していた内容とあってはいたか確かめられた。」「周也と律の関係が気になった。」「予想通り周也は軽かった。」「どきっとした理由がわかった」など、はじめにみんな話した内容について、物語を読み深めていた様子が見られた。今回は以前に近江の国語で教えていただいた導入を実践してみたが、学年のほかの学級でも、普通の導入より興味をもって文章を読めたという話を聞いた。今後子どもが自ら「読みたい」と思えるような教材との出会いを工夫していきたい。

(彦根市立城南小学校)

個別最適な学びと

ICT活用の実践

西條 陽之

GIGAスクール構想を受けて、本市でも四年生以上を対象に一人一台タブレット端末が配置された。四月から本格的に運用しているが、主力となるノートアプリが未だ導入されていないので、今は学習支援サービスのラインズeライブラリを活用して各教科における個別学習の推進に力を入れている。学習支援サービスの良い点は、同じ問題でも難易度を選択できる点である。

五年生での一例として、漢字の成り立ちの学習ではそれぞれの成り立ちについて知り、クイズを通して分類をした後、タブレットでの練習、確認テストを行った。練習問題では、「基本・標準・挑戦」の三段階から問題のレベルを選択できる。(レベルについては教師が指定することもできる。)各児童の取り組み状況は教師用ページから確認することができ、平均点も即座に反映される。これまでプリントで行ってきたことがタブレット上でできるようになり、さら

に児童への返しがほぼ同時に終わることになる。平均点を画面に投影し今のクラスの状況を共有できるようにした。子どもたちは、何ができていないのかが明確にわかることで、教師に尋ねたり友達同士で教え合ったりしながら解き直し、満点を目指していた。「今どこまでいった?」とライバルと張り合ったり、全ての問題を満点にした子は小さな教師になったりと、個別に黙々と取り組むのではなく、個別の課題をみんなが解決するという雰囲気があつて良いと感じた。テストの点数が全てとは言わないが、数値は学び方の客観的な評価である。確認テスト後すぐに画面に映されたクラスの平均点を見て「もう一回やろう!」「〇点上がった!」と自分事として意欲を高めていた。こんな姿が今までにあっただろうか。

タブレットを活用した学習指導はまだまだ発展途上、模索の最中である。もちろん課題も多くある。しかしながら、これからの社会を生き抜く子どもたちの前でこちらが挑戦しないわけにはいかないのだから、子どもたちの力につながる実践をこれからも重ねたい。

(大津市立小野小学校)

**音読で学級づくり**  
**「ふきのとう」**  
 川端 大介

2年生で初めての物語文「ふきのとう」を学習した。全7時間単元を計画し、1時間目は範読・音読指導。2時間目は登場人物の検討。3時間目は短文づくり。4時間目は音読の工夫を考える。5時間目は音読発表会に向けての練習。6時間目は、グループで発表をし、音読の工夫について意見交流。7時間目に音読発表会。

今年度、音読指導の際に徹底したいことがある。それは「教科書を両手で持ち、立てて読むこと」である。教科書の文字に注目させるために、全員に褒めながら徹底していく。教科書を両手で持つことは基本的なことであるが、なかなか徹底することは難しい。読んでいる時に、手遊びをしてしまう児童。えんぴつや消しゴムをさわってしまい、せっかくの音読の時間を減らしていることも少なくない。

「教科書を両手で持ちます。持てたら持ちました。」この指示で子どもたちはサツと読む姿勢を作る。初めは形にこだわっているようだが、A児が「みんなが本を持つときにそろった。」とつぶやいた。声の大きさや読む速さ、気持ちを含めて読む等、内容理解のために指導することはたくさんある。

A児の発言は「みんなで音読をするぞ。」という意気込みが感じられた瞬間であった。学級全体が音読に慣れることは、声を出すことが当たり前となり、学習の雰囲気をよくしていくことを実感している。思っている。

「ふきのとう」の登場人物は竹のはっぱ1、竹のはっぱ2、ふきのとう、雪、竹やぶ、お日さま、はるかぜと児童と読みながら確認をしていく。「さむかったね。」「うん、さむかったね」を「さむそうにブルブルふるえながら、小さな声で読めばいいと思います。」「やよいしよ、よいしよ、おもたいな」を「ゆっくり、小さく読めばいいと思います。」「というように、読みの工夫を一人ひとりが考えていた。音読の工夫を全体で共有した後、全体で工夫をもとに読んでみる。本当にブルブルふるえながら読む児童や、背中をまるめて静かに小さく読む工夫をする児童が現れ、なんとも言えない温かく心地よい雰囲気での学習が進んでいった。きつと、音読を通して「そろえる心地よさ」を感じているようにも感じた。

児童一人ひとりが「このクラスみんなで声をそろえて読むことって楽しい。もっとみんなで読みたい。」と感じることができるよう、音読の価値を伝え、広げていきたい。音読を土台にして、教材文と関わり、国語力を育てていきたい。

(守山市立立入が丘小学校)

**物語文を教えることの難しさ**  
 川端 由起

「なまえつけてよ」教科書が変わって、初めてこの物語と出会った。小さい頃から本が大好きな人間にとっては、この手の物語は「宮川ひろ」さんあたりで、すでに習得済みである。すなわち、それまでの人間関係が、ある出来事をきっかけに、変化する物語のことである。また、ある出来事をきっかけに、人物の心情が変化する物語のことである。しかし、本が苦手な児童がわからないことが多い。語の良さがわからないことが多い。語にまた、この「なまえつけてよ」に關しては、動物や近所のおばさんなど、たくさんものや人が書かれており、登場人物の焦点化にも困るだろうなと考えた。まず実践したのは、登場人物は誰かを児童に考えさせた。そうすると「春花」「勇太」とまず出た。想定内である。次に、「子馬」と発表する児童がいた。これも想定内である。次に、近所のおばさん、クラスメイトと、教科書に出てくる「名前」がほとんど挙がったのである。そこで、4年生の「ごんぎつね」に戻り、デジタル教科書を開き、「ごんぎつね」の登場人物でも、茂平という声が挙がったので、チャンストと思ひ、「登場人物とは、物語の中で自分意思(考えや思い)で行動している人」のことであると説明し、だから茂平は違うということを説明した。そうすると、児童は、「先生、子馬は登場人物ではありませんね!」という声があり、皆で子馬は違う。という声がある。魅力は?と児童に尋ねた。

「なまえつけてよ」の主要登場人物の誰が一番、物語の中で変わったか(心)である。そのままだらえもん・クレヨンしんちゃん。ドラえもん。映画は、大体、そのキャラクタの優しさや勇敢な心に元気づけられ、心が変化する。対称的に、クレヨンしんちゃん。映画は、しんのすけの行動に、周りが元気づけられ、心が変化する作品である。

児童は、アニメの事になると、目が輝き、くいつくように私の話を聞いてくれた。そして、「なまえつけてよ」の主題「誰の心が一番変わったか」を問いた。児童のノットには、文字がぎっしり並び、たくさんの意見が交わされた。今の子どもの意見は映像世代である。文字から心情を読み取ることで、程度知っている。しかし、皆があるにきつかけを与え、頭の物の文字が映像に変わった。全ての物語文を今回と同じように取り組む見かけは、様々な実践を行っている。

(草津市立志津小学校)

授業参観で学ぶ

授業の基礎基本

Ⅱ「めあて」を持つこと

森邦博

新型コロナウイルス感染防止のため変則時間割を実施しているある日、三年生の国語の授業参観をさせていただいた。物語を読む学習の発展として自分のお話を書く学習。

「お話を読むときに大事にしたことは何でしたか」

と発問。子どもたちは学習を振り返って「登場人物、場所や時間、その様子、5W1Hを大切に読む」と四つの条件を発表した。それを受けて、先生が

「四つに気をつけて書いてきました。聞いてください」と、自作の作文を読んだ後で、「今皆さんが言ってくれた四つの条件は満足できていましたか、どうですか？」と尋ねる。

子どもからは、確かに四つの条件が入っていてよいと評価する声や、感想も付け加えてくれる声も。先生も「有難う」の返事。こんな雰囲気です。

書く活動の場面では、「どう書くの、どれだけ書くの」「何を書くの？分らないよ」という声が聞かれる教室も少なくないのだ

が、この教室では、「めあて」がはっきりとしているためだろう、一人一人自分なりの構想を書き込む姿が見られたのだ。書き書けと言うけど、何がよいのか、書かめあてと評価基準がぼんやりとしているのとは大違いだ。

机間を回り読ませてもらうことにした。すると、「読んでください」と言うように用紙をずらして見せてくれる子、「続きはこうなの」と説明してくれる子も。

「ワクワクするね」「なるほど続きが楽しみなあ」と私、「ありがとう」と子ども、こんな楽しいやりとりが続く中、短縮授業はあつという間にチャイム。

「残念だけど、読み合いの時間がなくなりました」と先生。でも、子どもたちは終わりの挨拶の後にも作文を読み合い、感想を話し合っている。その輪は教室の中に何組も見られた。

そして今日の5年生。メダカを育てるの理科の授業を、途中からだが参観させていただいた。黒板には雌雄のメダカの形の違いを図で比較してあった。

先生が黒板に正面から見た雌雄二匹のメダカを書いて、「メダカが受精する時、どんなことが起こるか、図をノートに書きましょう」

と指示。子どもたちは戸惑い気味で挙手もない。それを確かめた先生は、メダカの受精の場面の動画を二回再生。

その後、二人が黒板にノートに書いた図を描いて発表した。二人の図は少し違う。

「もう一度確かめましょう」と再度再生。今度は「めあて」がはっきりとしていて、子どもの違いは先ほどより集中している。すると、雄メダカが背びれと腹びれを雌メダカに巻き付けていることが見つかった。同じ映像でもめあてを持って見ると見え方が違ってくることを子どもたちは体験的に学んでいるように思えた。

そして、先生は、「雄のひれは雌よりも大きいという雌雄のメダカの違いは、子孫を増やすための大切な特徴だったのですね」と解説された。雌雄の形の違いと受精行動のひれの動きとはバラバラな知識でなく意味を持つてつながっているの納得している子どもも表情が見られた。

3年生と5年生の学ぶ姿から改めて教えられたと思った。「授業の基礎の一つには何が出来る・分かるようになればよいのか「めあて」をはっきり持たせることがあ

る、そのことを。(京都女子大学・同附属小講師)

編集後記

▼四月例会(第四六九回)

新型コロナウイルス感染症防止対策を... 今年度の研究課題を「ICTの特性を活用した国語科の指導実践」と設定しました。第三回教育振興計画では①情報活用能力育成②授業の改善③校務軽減と教育の質の向上④ICT環境整備とICTを進めるとしています。また「ICTを効果的に活用した場面例」では具体的な授業場面を想定して公表がされています。これまでの教室の当たり前の環境が変わっていき、言葉の力が育つ授業をどう構想するかが課題となると思っています。▼実践提案は北島さん。大宝小2年生での作文の授業作りの歩みの提案。子どもの育ちと様々文種の経験・作文を読み合うことを願った実践です。「一枚文集で作文交流・日記・毎週読書生活を書く」を作文の基盤づくりとして継続しつつ、短文や作文の授業を計画的に積み上げた歩みです。▼実践例「新聞」「創作文」「説明文」では、2年生でつけておきたい書くことの力を明確にしておきた手立てに工夫されています。取材や常体文の体験は3年生の学習にもつながります。「創作文」での「題名、人物、構成」の基本を明確にした確かな指導には学ぶことが多くありました。「説明文」での「きたじまくん」(架空の友達)のモデル作文を検討する場面を設定が2年生にとって魅力的だと感じます。▼巻頭言には曾我正雄先生からの玉稿を頂きました。深謝。(森邦博)